

2017年5月10日

2017年度 鉄道事業設備投資計画 安全対策関連など 総額約219億円

京浜急行電鉄株式会社（本社：東京都港区，社長：原田 一之，以下 京急電鉄）では，中長期的視点から安全対策投資等を継続的に実施しており，2017年度は，鉄道事業において，総額約219億円（うち安全対策設備投資は約210億円）の設備投資を行います。

主な内容としては，高架橋や盛土の耐震補強工事や法面防護などの防災・地震対策を継続して進めるほか，踏切道など電気施設の更新・改良を進め，安全性の向上を図ります。

また，お客さまのホームからの転落や列車との接触を防止するためのホームドア整備工事に着手することや，ホーム上家延伸などの駅の改良工事を進めることで，お客さまの利便性向上を図ります。

そのほか，車両の新造・更新や大師線連続立体交差事業（第1期）工事についても引き続き実施いたします。

設備投資計画の詳細は，別紙のとおりです。



鉄道駅総合改善事業（金沢八景駅仮駅舎）



ホームドア（羽田空港国際線ターミナル駅）



新造車両（新1000形）



大師線連続立体交差事業（第1期）

設備投資計画の詳細について

1. 安全対策関連**約 210 億円****(1) 防災・地震対策****約 25 億円**

防災・地震対策強化のため、高架橋・盛土の耐震補強工事のほか、法面防護・トンネル補修・橋梁補修などを行います。

(2) 新造車両と車両更新**約 60 億円**

安全・快適にご利用いただけるよう、新型車両「新 1000 形」を新造し、また、既存車両の更新・改造を行います。

●車両の新造	新 1000 形	36 両
●車両の更新	新 1000 形	8 両

(3) 変電所・電気保安設備などの電気施設の更新・改良**約 40 億円**

変電設備の更新をはじめ、列車無線の改良により保安度の向上をさせるなど、電力・信号・通信など諸設備の更新、改良を行います。

(4) 駅改良工事（耐震補強含む）**約 42 億円**

さらなる利便性を向上させるため、ホーム上家延伸やエレベーター・エスカレーター更新を行うほか、駅舎・ホームの改修・改築を行い、安全性向上を図ります。

ホーム上家延伸	対象駅：黄金町駅，追浜駅
エレベーター更新	対象駅：羽田空港国内線ターミナル駅，生麦駅
エスカレーター更新	対象駅：鮫洲駅，新逗子駅
駅舎・ホームの改修・改築	対象駅：井土ヶ谷駅，金沢文庫駅，金沢八景駅，堀ノ内駅，京急長沢駅，三浦海岸駅

(5) 連続立体交差化工事**約 7 億円**

大師線連続立体交差事業（第 1 期）工事は、暫定整備区間として東門前駅～小島新田駅間の地下化工事を引き続き進めてまいります。

(6) その他**約 36 億円**

ホームドア，工場，検車庫の改良・改修 ほか

※国や地方自治体との共同事業も上記の中には含まれておりますが、金額標記は当社負担分です。

2. その他**約 9 億円**

以上